



令和6年11月29日



学校だより

第9号

東京都立田園調布特別支援学校

大田区田園調布5-43-6

電話 3721-6861

URL: <https://denenchofu-sh.metro.ed.jp/>



師走です

校長 川崎 淳子

12月に入っても、気温が20℃に迫るような天候不順が続いています。

感染症も流行りを見せ、生徒だけでなく大人も健康管理に気を付けなければいけない季節になりました。まずは、「換気」が大切だそうです。

先日、11月27日～29日に、2年生と千葉方面へ修学旅行に行ってきました。

学生生活最後の宿泊行事ということで、生徒たちも「あれをやろう、これもしたい」と胸を膨らませて準備をしてきました。旅行先は、成田空港、東京ディズニーランド、鴨川シーワールドと観光地としては有名なところなので、行ったことがあるよ、という生徒がほとんどでしたが、高校時代の友達と一緒に旅行はまた違った楽しみ方もあるようで、思い出に残る2泊3日となりました。ここで培った友達との絆を糧に、これからの文化祭や実習、勉強を頑張りたいと思います。

さて、先日見た、印象に残る授業のお話を一つしたいと思います。

3年生の「職業」の授業で、「リフレーミング」の授業をしていました。リフレーミングとは、「物事や出来事、状況などの枠組み（フレーム）を変えることで、別の視点をもつことができる」という意味の心理学用語で、授業では、生徒たちが自分の短所を前向きに捉え直すためのスキルを学んでいました。驚いたのは、生徒たちが、自分の短所や弱点などをあげる際、「自分」というものを非常に客観的につかんでいるな、ということでした。

現在、特別支援教育では、ソーシャルスキルトレーニングに取り組む学校や学級が増えていますが、まずは「自分」を知る（自己理解やメタ認知能力）を育てることが大切で、それがあつて、援助要請のタイミングや自分流のやり方が分つてくるのだと考えています。その点では、本校の生徒はリフレーミングの基本的な力は育つてるととても感心しました。ただ、授業という流れの中で短所や弱点をリフレーミングすることはできますが、卒業後は、これをまわりの人の支援を受けながらも、自分の中でやっていかなければなりません。「自分には弱点はあるけれど、それを捉え直せばいいことでもある」ことや「ここで援助を受ければできる」という考え方を、卒業までに身に付けさせてあげたいと強く感じた授業でした。

2学期もあと少し。最後のまとめをしっかりと進めていきます。